平成 27 年度 卒業式式辞

本日、学士の学位を得た学部卒業生 911 名、修士の学位を得た大学院修士課程修了生 206 名、博士の学位を得た大学院博士後期課程修了生 3 名、特別支援教育特別専攻科修了生 6 名の計 1,126 名の皆さんを、2015 年度卒業生、修了生として送り出すことを大変喜ばしく思います。皆さん、おめでとうございます。御来賓の本学後援会の原会長ならびに本学同窓会の宮崎会長、列席の理事・副学長・学部長とともに、ご卒業を心からお祝いいたします。また、ご家族、ご関係者の皆様にも、心からお慶び申し上げます。

さて、皆さんは、大学での学び、研究、クラブ活動、社会活動などから、多くのことを学ばれたことでしょう。これからは、身につけてこられた知識と経験を活かして、様々な分野で、そして国際社会、地域社会で、その能力を存分に発揮して下さい。皆さんの先輩は、国内外の色々な地域で活躍し、その成果を残されています。英国 BBC 世界世論調査 2014－「世界に良い影響を与えている国」レポートの世界ランキングで、日本は第 5 位として、評価されています。皆さんも、先輩方に続き、世界に貢献できる人材として大いに活躍して頂きたいと思います。

また、少子高齢化が進む中、総務省統計局が公表した 2015 年国勢調査の速報値では、日本の総人口は 1 億 2711 万人であり、2010 年の前回調査に比べ 94 万 7 千人減少しています。皆さんは、労働力の少なくなった分を、知識の活用や問題解決力により、知的生産性を向上することで補完しなければなりません。

皆さんの英知に期待いたします。

近年、国際情勢は非常に不安定で、テロも多発しており、今週初めには、ベルギーでも悲惨なテロがありました。今年度の和歌山大学（国際教育研究センター）主催の留学生による日本語スピーチコンテストでは、マジュドゥバ・アンジェリック・レアさんが、「みんなビストロに行こう」の題目で、テロへの反骨心をこめて、フランスの自由の象徴であるビストロに行こうとお話しされました。私達は、世界の人々とともに、テロに負けない世界を創っていかなくてはなりません。今の時代、天変地異や社会不安など世界中で様々な出来事が起こっておりますが、予測できないものや不確実なものを心配しても切りがありません。皆さんには、色々な変化に備えた心掛けを持って、主体的に課題に立ち向かう姿勢を期待いたします。

皆さんは、今、当たり前のように、スマートフォンやインターネットを活用していると思いますが、iPhone が発売されたのが９年前の 2007 年１月です。情報化社会の進展は、とどまるところをしりません。先日、Google が開発した人工知能を活用した囲碁ソフトの AlphaGO が韓国のプロ棋士イ・セドル９段に４勝１敗で圧勝しました。囲碁は組合せが複雑で、人工知能が人間に勝つには後１０年はかかると言われていましたが、技術の進歩は非常に早くなっています。複雑な人工知能を活用した知的システムが社会に浸透していくことで、現在の多くの仕事がなくなり、新たな仕事に変わっていくことが想定されます。

しかしながら、社会や産業の構造が変わっていくことを恐れることはありません。その時代が要請する知識を継続的に学び続ければ、どのような変化にも対応できるでしょう。生涯学び続けていくことが重要です。和歌山大学は、皆さんの継続的な生涯の学びを応援していきます。

皆さんは、これから新しい世界へ進むわけですが、どのような環境、どのような状況においても、自分の周りにいる人との関係を大切にして頂きたいと思います。

Google が生産性向上計画「プロジェクト・アリストテレス」の中で、特に重

視した生産性のチームワークについて分析しました。成功しているチームは、「働き方の問題」ではなく、「優秀なメンバーが集まったチーム」でもありませんでした。チームワークがその力を発揮するには、「他者への心遣いや同情、あるいは配慮や共感」といったメンタル的な要素が重要であることが分かってきました。そして、これは仕事の上だけの話ではありません。

社会の一員として生きていくうえでは、自分一人だけでは解決できない壁に遭遇することがあるでしょう。そのときは、躊躇せず、周りの方々の力を借りて下さい。そして、周りの人が壁にぶつかったときには、すすんで力を貸してあげて下さい。職場の仲間、友人や家族、自治体や社会システム等が協力して、問題を乗り越えることが大切です。

これからも、和歌山大学が皆さんの力となれることが沢山あるでしょう。また、和歌山大学が大学の問題を乗り越えるときには、卒業生・同窓生の力を借りることもあるでしょう。そのときは、是非皆さんの力を貸して下さい。大学も色々な改革により皆さんとともに成長し続けていきます。

最後に、皆さんが、この時代をしっかりと生き、幸せな気持ちを持って社会で活躍できることを期待いたしまして、式辞といたします。

2016 年 3 月 25 日
和歌山大学長　瀧　寛和